

中期経営計画「DKK-Plan2025」ローリングプラン説明会 質疑応答 (2024年3月26日開催)

<質問 1>

防衛関連で伸ばす製品を具体的に教えてください。

回答：

防衛製品は予算が大幅に増額することが明らかになっております。当社は従来、無線技術を活用し既存製品を納入してまいりました。既存の製品群に対しても、需要は今後もあると見込んでおり、継続して取り組んでまいります。また、電磁波領域に関する需要についても防衛省から指針が出ており、当社技術とも親和性があるため新たな製品の開発を進めてまいります。アンテナ技術に関しては、移動通信関連を通じて無線に関する技術力は鍛えられているため、それを活用していきます。また最近の実績としては、令和5年度「潜水艦放送系送信設備に関する基本設計」業務を受注しました。これをやり遂げ、将来の大型設備更新の受注獲得に繋がりたいと考えております。

<質問 2>

P25（株主還元・財務戦略の見直し）に記載の投資戦略の総額 275 億円と P26（キャピタルアロケーション）に記載の投資、株主還元の総額 150 億円の差はどこから出てくるのでしょうか。

回答：

P25 の修正計画に記載の数値は、当初の「DKK-Plan2025」開始から 2027 年 3 月期までの 5 年分の総額を表しています。P26 ページの 150 億円は、2025 年 3 月期から 2027 年 3 月期の 3 年分の総額であるため、差異が生じております。

<質問 3>

移動体通信会社は設備投資をほぼ終了しましたが、これから御社のアンテナの技術をどのように使って、売上高、利益をあげていくのでしょうか。

回答：

移動通信については、5G に関する投資が落ち込んでおり、設備投資は停滞気味ではありますが、ただし、日本国内のトラフィック使用量は非常に増加していることもあり、今後も大幅増は見込めないかもしれませんが、継続的に需要はあることが想定されるため、当社技術を活用していけると考えております。また、将来的には Beyond5G や 6G 等の需要もあると考えられるため、将来に向けた研究開発を進めております。アンテナ技術は当社のコア技術であります。研究開発の選択と集中の項目でも説明いたしました。

当社のコア技術である無線通信技術をワイヤレス電力伝送に活用する取り組みも進めており、今後も研究開発を推し進めてまいります。